

第1会場 8:45~9:00

## 会長講演

### 第6回国際臨床医学会学術集会の開催にあたって

國土 典宏（国立研究開発法人国立国際医療研究センター（NCGM）理事長）

私たちの国際臨床医学会は、「国際臨床医学をより学術的な面から追求していくこと、その活動を通じて国民にとって有益な医療の発展を目指すこと及びその成果を広く社会への普及に努め、その医療を担う人材を育成し、国内外の本分野の医療・研究の指導的な役割を果たすこと」を目的に活動を続けています。しかしこの1年の活動は、どうしてもコロナ禍における対応が会員の皆様の中心テーマになられたのでは無いかと想像します。

この1年に訪れた SARS-CoV-2 感染症の流行の波は次々に大きくなり、1日の新規感染者数は第5波の時に最大 25,892 人を記録し（2021年8月20日）、本日までの感染者総数は 1,723,327 人、死亡者総数は 18,268 人を数えました（10月30日現在）。一方、我が国ではワクチン投与が進み、流行収束に向けた新たな水平線が見え始めています。果たして、本学術集会開催地である東京都でさえも、新たな感染者数は1日23人に減少しています。（10月30日現在）。

本学術集会主催団体である NCGM は、このコロナ禍に一丸となって患者対応や流行対策に働いています。本講演では NCGM の COVID-19 との1年あまりに及ぶ戦いを振り返り、ポストコロナへの私たちの覚悟を述べさせていただきます。